

鈴木万緒（滝高校→名古屋市立大学薬学部生命薬科学科）

入塾時期

高2 冬期春期講習

合格校

早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科

明治大学農学部農芸化学科

立命館大学生命科学部生命医学科/生命情報学科

法政大学生命化学部環境応用化学科

① 創ゼミという塾について

私は高2の冬期春期講習から入塾しました。入塾時、私は行きたい学部、学びたいことが決まっていなかったため、部活を引退してから本気で勉強を始めようと考えていました。しかし、創ゼミの入塾を機に、その考えは甘いということを痛感し、高2の1月から徐々に勉強時間を増やしていきました。創ゼミではみんな必死に勉強しています。なかなか受験モードに切り替えられなかった私でも焦り、本気モードに入っていくことができました。また、創ゼミでは先生方の面倒見がとても良いです。私に適したアドバイスをその都度頂き、しっかりと勉強を進めていくことができました。

② 特に力を入れて頑張った科目

私が特に頑張った強化は理科です。高2の時、勉強をさぼってしまったため、高3になってから大変苦勞しました。既習範囲もやらなければならない状況で、どんどん新しい分野に入っていき、まさに蟻地獄のような状況でした。反面教師にしてください。理科の勉強を進めていて感じたことが、勉強した分だけ確実に点に結び付くことです。もちろん、勉強し始めは伸びませんが、最後にはしっかりと身を結ぶことができる科目だと感じます。特に化学では有機と無機をとらえるだけで大きく変わってくると思います。暗記は後回しにすると直前で焦るので、早めに終わらせておき、直前は確認する程度にしておく心と心に余裕が生まれると思います。

③ 共通テスト対策の重要性について

共通テスト対策は、どの科目においても大切なことだと思います。特に対策すべきだと思った科目は数学です。共テ数学は時間勝負です。解けそうだなと思った科目でも、計算が複雑であるなら飛ばしていくことも手だと思います。その1問のために後の大問で大幅減点をしてしまったら意味がありません。このような問題を見極めるには訓練あるのみだと考えます。

④ 合格までの道のり

推薦について、人によりますが、私は一つの手として受けることをお勧めします。私は学校推薦型選抜 B という方式で受験しました。出願資格として、評定 4.0 以上という条件があります。また、名市大薬学部では、一般試験が中期日程しかなく、倍率が跳ね上がります。そのため、一般試験と比べると推薦入試のほうが倍率が低く、合格率も比較的高いようなイメージです。しかし、デメリットもあります。私は共テ後から面接の対策を始めたのですが、そちらに時間がとられてしまうこと、また、勉強に完全に入り込めない状況に陥ってしまいました。そこで、推薦に期待しすぎないことが肝心だと思います。これらを考慮して、推薦の受験を鑑みてください。

⑤ 塾の小テストの重要性について

塾の小テストは必ず合格するように真剣に取り組んでください。先述したように、私はさぼり癖があったため、追試、再追試、と今考えると恥ずかしい話です笑いつかはやらないといけないのです。後回しにしていくほど、自分を追い詰めていくことになります。創先生が立ててくださった小テストの計画通りに習得していくことが大変有効です。

⑥ 後輩塾生へのアドバイス

後輩の塾生に伝えたいことは、あきらめないことです。最後の模試の後、学校の先生からは「厳しい」と言われました。しかし、創先生は私のことを見捨てることなく最後まで信じてくださいました。そのおかげもあり、志望校をあきらめることなく走り続けることができました。ここで伝えたいことは、E 判定でも大丈夫ということでは決してないです。E 判定からの逆転は不可能に近いです。私自身、推薦で合格できたことは奇跡のように思います。また、判定がとれていないと精神的にきつく、勉強に障害が生じることもあります。実際私がそうでした。もちろん、弱気になってしまうことはだれしもあります。しかし、時間は有限です、悩んでいる暇があるならば、1つでも多く英単語を覚えたほうがお得だと思います。最後まであきらめることなく、挑んでいってほしいです。応援しています。